



[果樹部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

## 11. 岡山県で栽培した「ナガノパープル」の特徴

### [要約]

岡山県で栽培した「ナガノパープル」は、「ピオーネ」と比べて生育がやや早く、産地や作型を問わず、着色が非常に優れる品種である。現地での「ナガノパープル」の栽培実態調査では、裂果が激しく発生する園があった一方で、発生が軽微な園もみられた。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 果樹研究室

[連絡先] 電話 086-955-0276

[分類] 情報

---

### [背景・ねらい]

「ナガノパープル」は、長野県果樹試験場が育成した 3 倍体の黒色系品種で、着色が優れて食味がよく皮ごと食べられることから、県内でも注目され植栽が進んでいる。しかし、県内での栽培事例は少なく、栽培上の特性や果実品質の特徴等が明らかでない。そこで、「ナガノパープル」の生育及び果実品質を本県の主要品種である「ピオーネ」と比較するとともに、現地での栽培実態を調査し、岡山県で栽培した本品種の特徴を明らかにする。

### [成果の内容・特徴]

1. 赤磐市の簡易被覆で栽培した「ナガノパープル」は、「ピオーネ」と比べて発芽日、満開日、果粒軟化日及び収穫開始日が 2～5 日早い（表 1）。
2. 赤磐市の簡易被覆で栽培した「ナガノパープル」は、「ピオーネ」と比べて着色が非常に優れ、カラーチャート（C.C.）値 10 以上の濃い黒色に着色する。また、「ピオーネ」と比べて果粒重はやや大きく、糖度はやや低いものの約 19 度で十分に高い（表 2、図 1）。
3. 県内各地の「ナガノパープル」を対象に行った現地実態調査では、8 割の園で果皮色の C.C. 値が 10 を超えていた（図 2 左）。
4. 現地実態調査では、作型に関係なく多くの園で裂果がみられた。約 3 割の園では裂果の発生果房率が 40% 以上で、発生果粒数も 1 果房当たり 0.3 粒以上と多かった。一方、約 5 割の園では裂果の発生果房率が 20% 未満と低く、発生果粒数も少なかった（図 2 右）。
5. 現地実態調査において、栽培上の課題と感じる点を聞き取ったところ、裂果の発生、花穂の形状の悪さ、傷果及びしぼみの発生が多く挙げられた（データ省略）。

### [成果の活用面・留意点]

1. 現地での栽培実態調査は、令和 7 年に農研及び県南部、県中部及び県北部の各産地の加温栽培、無加温栽培、サイドレス栽培及び簡易被覆栽培の計 20 園地で実施した。
2. 農業研究所における無核化・肥大処理では、「ナガノパープル」は満開期にジベレリン 25ppm＋フルメット 2 ppm 液、満開約 14 日後にジベレリン 25ppm 液で、「ピオーネ」は満開期のみでジベレリン 25ppm＋フルメット 10ppm 液でそれぞれ花穂を浸漬処理した。
3. 本品種は若木期に激しい裂果が発生する事例が多いものの、必ずしも成木期まで裂果が多いとは限らない。
4. 今後、裂果発生程度の園地間差の原因究明が必要である。



### 〔具体的データ〕

表1 「ナガノパープル」と「ピオーネ」との各生育時期の比較（令和6～7年）

| 年次   | 品種      | 樹齢 | 発芽日<br>(月/日)           | 満開日<br>(月/日) | 果粒軟化日<br>(月/日) | 収穫開始日 <sup>z</sup><br>(月/日) |
|------|---------|----|------------------------|--------------|----------------|-----------------------------|
| 令和6年 | ナガノパープル | 6  | 4/11 (-3) <sup>y</sup> | 5/22 (-3)    | 7/1 (-4)       | 8/16 (-3)                   |
|      | ピオーネ    | 10 | 4/14                   | 5/25         | 7/5            | 8/19                        |
| 令和7年 | ナガノパープル | 7  | 4/14 (-4)              | 5/26 (-2)    | 7/3 (-3)       | 8/13 (-5)                   |
|      | ピオーネ    | 11 | 4/18                   | 5/28         | 7/6            | 8/18                        |

注) 赤磐市(農研)におけるデータ

<sup>z</sup> 収穫開始日は食味による減酸の程度で判断した

<sup>y</sup> ( )内の数字は同年の「ピオーネ」の同生育ステージとの差(日数)

表2 「ナガノパープル」と「ピオーネ」との果実品質の比較（令和6～7年の平均）

| 品種      | 果房重<br>(g) | 果粒重<br>(g) | 果皮色<br>(C.C.値) | 糖度<br>(° Brix) | 酸含量<br>(g/100ml) | 果汁<br>pH | 裂果<br>(粒/房) |
|---------|------------|------------|----------------|----------------|------------------|----------|-------------|
| ナガノパープル | 646        | 19.1       | 10.8           | 18.9           | 0.40             | 3.73     | 0.1         |
| ピオーネ    | 563        | 17.8       | 6.5            | 19.9           | 0.47             | 3.49     | 0.1         |

注) 赤磐市(農研)におけるデータ



図1 「ナガノパープル」（上段）及び「ピオーネ」（下段）の着色の様子（令和7年）

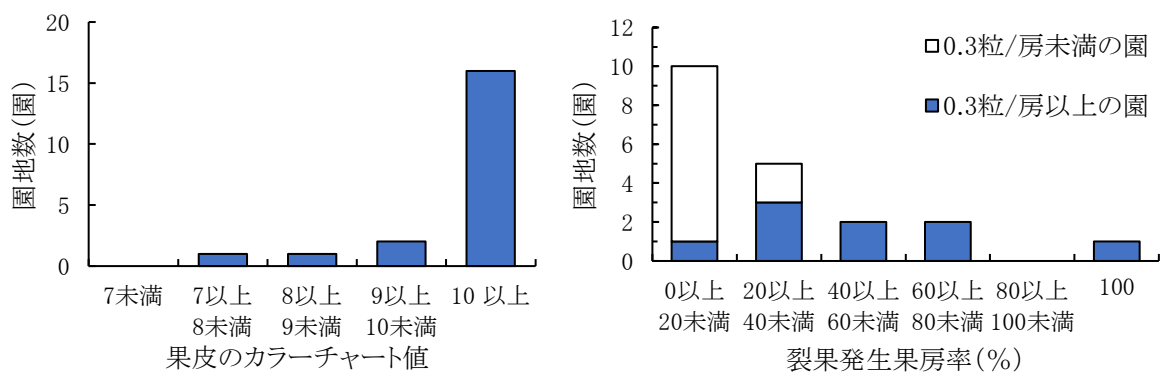


図2 現地調査園及び農業研究所の「ナガノパープル」の果皮カラーチャート値（左）及び裂果の発生率（右）とその園地数（令和7年）

### 〔その他〕

研究課題名：注目される県内外のブドウ品種に適した栽培技術の確立

予算区分・研究期間：県単・令7～11年度

研究担当者：平井一史、渡辺真帆、中島 譲、上田一輝、久保田朗晴、白石陸人、荒木有朋

関連情報等：1) 試験研究主要成果、[令7 \(29-30\)](#)